

CONTENTS

この本の使い方 4

謝辞 6

序章 なぜ今、歯髄保存なのか? 7

COLUMN 10

1章 歯髄治癒の原則 15

“治る歯髄／治らない歯髄”

—露髄した歯髄から学ぶ歯髄保存の原則—



2章 歯髄の診断と治療方針 31

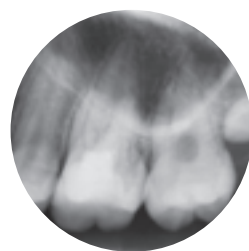
“治る歯髄を見極める”

—冷温度診, EPTを使いこなし, 結果に応じて治療方針を変える—

科学編 32

臨床編 61

COLUMN 60



3章 う蝕除去 75

“何をどこまで除去するか”

—う蝕検知液と硬さ, 使い分けとポイント—

科学編 76

臨床編 86

COLUMN 89

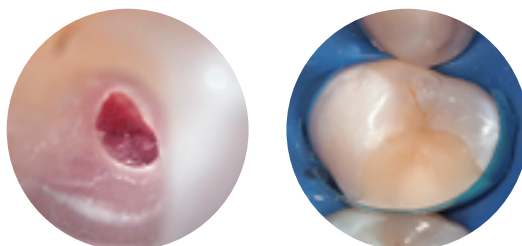


4章 直接覆髄 91

“露髄した歯髄を治癒に導く”

—直接覆髄, 部分断髄, 歯頸部断髄—

科学編 92
臨床編 114
COLUMN 114

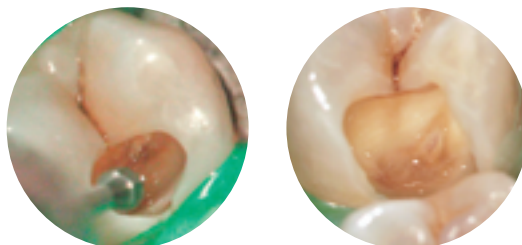


5章 間接覆髄 123

“露髄させない治療法”

—シールドレストレーションとステップワイズエクスカベーション—

科学編 124
臨床編 142
COLUMN 141



6章 仮封と最終修復 149

“マイクロリーケージを防ぐ修復治療”

科学編 150
臨床編 162
COLUMN 154



おわりに 169

索引 170